

28. 俵・かます・ふご

わら製品には縄・むしろ・草履のほか、俵・カマス・フゴという容器類があり、稲の取り入れ以降の作業や保管に使われた。種類は多いが寄贈品はまだ少ない。

◆俵編み機

〈A〉は「俵編み」の脚。Y 字形の枝分かれ材を半割りにしたもので高さ 49cm。これに直径 4.5cm、長さ 14cm のつちのこ 8 個が付属する。〈B〉も「俵編み機」で桁。

〈A〉と〈B〉は別々の家からの寄贈品だが、〈C〉のように組んだのであろう。

◆俵は 2 重装

俵はカワ（皮）とミ（身）の 2 重になっている。皮には綺麗な藁、身には荒い藁を使った。両口にはタワラノヘタ（＝さんだわら）をあてた（鳥飼八町）。

◆太縄をなう道具？

〈D〉は 2 本の縄をよりあわせて太い縄にする道具か。歯車の直径 32cm、枠は 75cm。

◆草履づくりの針

〈E〉は資料カードに「わらぞうりづくりの針」。長さ 18cm。

◆カマス

〈F〉は「かます」で長さ 83cm、幅 84cm。もみを入れたり、種籾を入れて漬けるほか、砂を詰めて水防用の土嚢とするなど、いろいろな使い方がされたと聞いた。

◆フゴ（畚）

〈G〉は資料カードに「畚」（ふご）。口幅 90cm、高さ 60cm。〈H〉も「畚」で右の大きい方が口径 62cm、高さ 39cm。左が口径 56cm、高さ 37cm。用途の記載はない。

◆多彩なフゴの文化

フゴの種類と呼称と用途は実に多様で、写真や現物と照合しての聞取りが急がれる。

ベントウフゴはエンドウ・マクワを取りに行くのに使う（鳥飼上）／フゴに弁当・野良着を入れた（鳥飼下）／ハンショウフゴには粳摺りした玄米を入れる（鳥飼下）／ハンショウフゴは紐が長い。玄米入れてオウコで前後に 2 個運ぶ（千里丘東）。

◆ダンゴウフゴ

ダンゴは筵を縦につないで囲いにしたもの。米なら 11 俵入る（千里丘東）／ダンゴウは $\phi 1.5\text{m}$ で粳入れ。昼間はニワのむしろに広げて天日で干し、3 日程繰り返す（千里丘東）／ダンゴ・ダンゴフゴは粳を入れて竹の棒でいなう（千里丘）／ムシロダンゴウは折り畳み式（千里丘東）／ご飯の保温はダンゴフゴ、子守用はコドモダンゴ（鳥飼下）。

